

第 11 回 HV 杯争奪練習会レポート

開催日：2016 年 11 月 3 日（木）9:30～12:00

場所；鶴見川河川敷

天候：晴れ（15.0 度）

レポート作成：榎澤

「メンバーの親睦を図り、一年の成果を記録し翌年の活動の励みとする。」ことを目的に始まった HV 杯も 11 回目を迎えました。今回は仕事等で都合がつかないメンバーが多く、選手 3 名（関口、”クロキッチ”青木、榎澤）、計時スタッフ 1 名（宮川）の総勢 4 名で行われました。

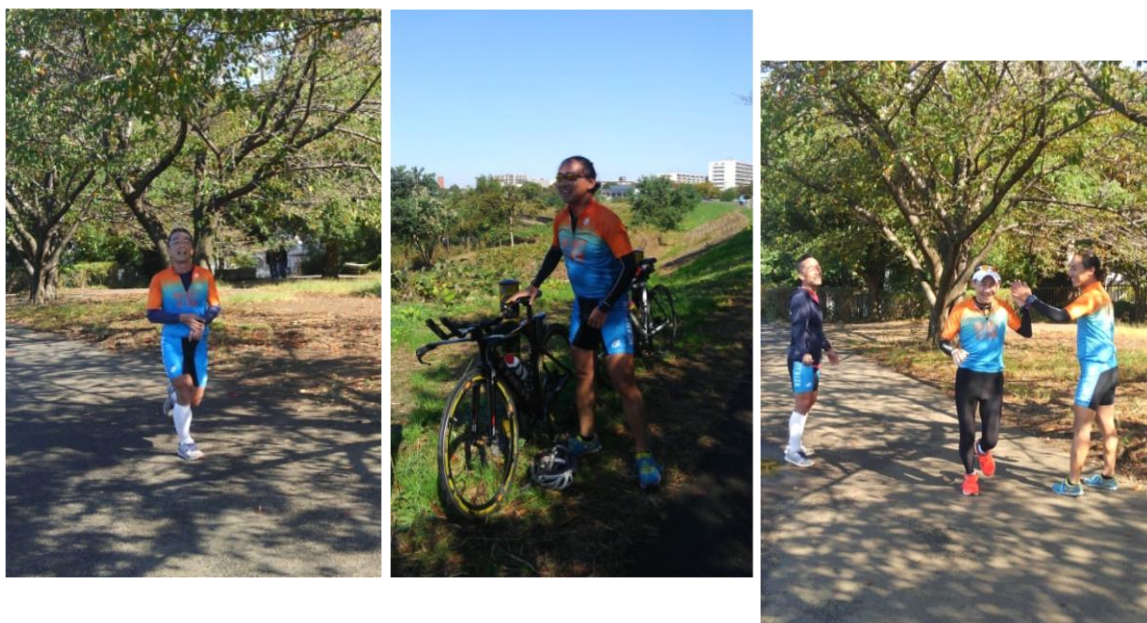


レースレポート（敬称略）

レース参加しながらの榎澤目線の偏りあるレポートになることをご了承ください。有力選手の欠場が相次ぎ、ディフェンディングチャンピオンのクロキッチ青木の独走も予想されたが、まさかの大遅刻。セカンドランを 1 周余分に走るペナルティーを科せられ、事態收拾のため榎澤も 1 周余分に走ることとなった。4 km のハンディーとなり、突如として関口が優勝候補に踊り出る。また、スタート地点を車止めのゲートを越した公園側にずらし、ゲートまでの 50 m は乗車禁止のトランジションゾーンとした。

スタートから例年に比べ、スローペースの展開となる。「体が重いですね」などの、クロキッチのささやき作戦がさく裂する。すれ違う位置から、マラソンレースを控えた関口との差が小さいこともわかり、見えに敵との戦いも強いられる。クロキッチに後ろにつかれたまま、正確に言うと油断を誘うため余裕の 10 m 位離れた状態でファーストランを終了。バイクもクロキッチを従えて、歩行者をよけながらの走行。突然雄叫びを上げて威嚇しな

がらクロキッチが抜いていく。抜き返すチャンスを探しつつ、クロキッチの後方に控える。残り5キロのコースが広がったところで、クロキッチをかわして一気に加速して逃げる。バイクゴールは少し離れたが、軽く射程圏内である。第2ランは2往復、3回折り返す。2回目のすれ違いでは100m強の差。劇的な逆転を狙って計算しているのかあまり詰まっていない。関口もバイクで遅れているのがわかり、少し緩み始めた残り2kmの折り返し、クロキッチに射程圏内まで近づかれていることに気付く。しかも、クロキッチは捕食者の顔をしている。この距離をつめられないように逃げてあきらめさせようと、急にペースアップ、苦しいながらもクロキッチの猛追をなんとかかしのいでゴール。お陰様でよいトレーニングになりました。関口も間もなくゴール、今年も無事にハートビューカップは幕を閉じました。



氏名	1stRun Split	Bike1 Lap	1stBike Split	Bike2 lap	Bike2 Split	2ndRun1 Lap	2ndRun1 Split	2ndRun2 Lap	Total time	順位
榎澤	19:47	21:27	41:14	20:35	61:49	19:20	81:09	18:52	1:40:08	1
青木	19:57	21:10	41:07	22:42	63:49				1:42:08	2
関口							—	—	1:50 頃	3

コメント

関口：「初の入賞です！ 次回の入賞できるのはいつの日か・・・(笑)」

青木：『今回は榎澤さんの強さに太刀打ち出来ませんでした。大きな目標があるからこそ私も頑張るので、これからも益々強くなってください。関口さん、練習不足にも関わらずあの頑張りは見事です。なにわともあれ三位です!!おめでとうございます✳️ 宮川さん、記録&写真撮影ありがとうございました!これからもっと一緒に練習しましょう♪』